

総務経済委員会 行政視察報告

5月17日から19日にかけて、委員7名、議長、事務局随員2名で、東京ポートシティ竹芝・長万部アグリ株式会社・北海道北斗市を視察してまいりました。

■東京ポートシティ竹芝

スマートシティの取組について

東京ポートシティ竹芝は、2020年9月14日に竹芝の新たなランドマークとして開業しました。ビルは地上40階建ての大規模複合施設であり、オフィスだけでなく21店舗の飲食店や展示室、スタジオ、ホールなどの様々な施設を備え、施設の特徴であるスキップフロアは、都心にいながら自然を感じることができ、憩いの空間となっております。また、屋内に設置されたカメラやIoTセンサーから温度や湿度などの環境情報、館内や周辺の人流データ、混雑情報などをスマートシティプラットフォームで収集・解析し、ビル全体に最先端テクノロジーを搭載した「スマートビル」として、オフィスの新しい働き方や、来館者への快適な利用を提案しています。



▶東京ポートシティ竹芝

行政視察報告

さらに、東京都から竹芝エリアでのスマートシティの取組が評価され、2020年7月に、「スマート東京（東京版Society 5.0）」の実現に向けた先行実施エリアプロジェクトに選定され、大丸有や豊洲に並び東京都を代表するモデルプロジェクトとして本格的にスマートシティを推進しているとのことでした。

■長万部アグリ株式会社

先進的農業生産システムを活用したミニトマトの生産について

長万部アグリ株式会社は、長万部町と東京理科大学による、地方創生事業の一環として2017年に誕生し、高濃度のミニトマト生産の取組を始めました。

「アイリッチ(AIRRICH農法)」という水耕栽培の一種で、土の代わりに長万部産ホタテ貝の殻や化石サンゴを使用したアルカリ性培地の下、様々なセンサー等からの情報をAIが判定し、その情報がスマートフォンのラインアプリに表示され、それを基に栽培管理を行っており、また、糖度

や栄養素を高める遺伝子を環境制御や灌水制御オペレーションシステム「minorich」と呼ばれる方法によりトマトを刺激することで、糖度の高いミニトマト作りを行っています。

その結果、一般財団法人格付けジャパニ研究機構による試験では、美味しさ、健康機能性、価格特性の総合評価で「データプレミアムNo.1格付け認証」を受賞し、「エンリッチミニトマト」として高い評価を得て販売しているとのことでした。

今後、味の変動がなく、収穫量を安定させることが課題であるとのことでした。



▶長万部アグリ株式会社

■北海道北斗市

SDGsの取組について

北斗市では、「第2期北斗市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、SDGsを原動力としたまちづくりを進めており、SDGsの17の目標のうち、11、「住み続けられるまちづくり」について様々な取組を行っています。

近年、人口減少が進む中、日常生活に必要な不可欠な公共交通確保の一環として、「道南いさりび鉄道」の利用促進を図る取組を行っています。

道南いさりび鉄道株式会社は、平成

28年の北海道新幹線開業時に北海道旅客鉄道株式会社から経営分離され、並行在来線としての運営を担う鉄道事業者となりました。これにより、道南いさりび鉄道の旅客運賃が値上げとなり、また運営するに当たり10年間での赤字見込額が23億円に上ると推定されました。

こつこつしたことから、地域応援隊・商店会・各種団体・学校・行政等が連携し、道南いさりび鉄道の利用促進を行う取組が行われております。

まず、「観光列車」ながまね海峽号「ツア」を企画し、駅ホームでの立ち売り販売や海鮮焼き「ナー」、地元高校生による自校制作品の車内販売等を行うなどして、利用者の増加を目指しており、熱のこもった企画力や地域一丸となった取組が高く評価され「鉄旅OFF THE YEAR 2016」グランプリを受賞し、さらに、地元高校生への利用促進を図るため、通学定期券に限り購入費用の補助を行い、値上げの影響による鉄道離れを防いでいるとのことでした。

SDGsの取組は国や自治体だけが取り組んでも決して達成することはできず、企業や団体・学校、そして市民一人一人がそれぞれの役割を果たし、連携を深めて取り組むことが重要であるとのことでした。



▶北斗市